

ひ か じ 火あそびは火事のもと

ひ ようじん
ケンタとニャンタの火の用心



♪歌を歌いながら

防火について覚えよう♪



どこ どころ どころでも
火あそびは ダメ ダメ



企画意図

消防庁のまとめによると、過去30年間に発生した火災の出火原因は、放火(放火の疑いも含む)、タバコ、ガスこんろ、火遊び、たき火が順位の変動はあるものの常に上位5位までを独占しています。なかでも「火遊び」は、火、明かり、炎などに興味を持ち始める2歳から6歳までの幼児による火災が殆どです。その原因は、マッチなどを使わなくても点火できるガスこんろやガスストーブなど、便利になった日常生活が、火に対する警戒心を薄れさせたこと。また、核家族化、少子化などの社会環境の変化が、生活の知恵の伝承を失わせ、子供たちに火の正しい扱い方や、火の恐ろしさを学習する機会を無くしたためだといわれています。

そこで、この作品は、火の扱い方、火の恐ろしさを知ってもらうため、子供たちが親しみをもって見られるアニメーションで描き、そのキャラクターは、ケンタ(5歳の男の子)とニャンタ(ケンタが飼っているネコ)を主人公にして、楽しみながら、火に対する知識を身につけてもらう工夫が施された内容となっています。

あ ら す じ

街の消防署ではワンコ消防隊が今日も元気に点呼の最中。「1、2、3、4、……」全員集合して火の用心の巡回へ出かけるところだ。

「ワンコ消防隊、出動します!」

さて、今日も一日、無事に終わるでしょうか?

■子供の留守番で危ない「火遊び」

ケンタ(4歳・男の子)とペットのニャンタは部屋でシューティングゲームに夢中。敵を撃墜して燃え上がる火の玉に大興奮。と、そこへ母親が声をかける。

「ケンタ、ママすぐ近くへ買い物に行ってくるから、留守番しててね。」

母親は買い物へ出かけてしまった。しばらくしてゲームに飽きたニャンタが紙ヒコーキを飛ばして遊び始める。それを見たケンタ、ゲーム感覚で、「よ〜し。紙ヒコーキをやっつけてやる!」

そばにあったライターで紙ヒコーキに火をつけ遊び始める。すると、メラメラと燃える紙ヒコーキ。ケンタは慌てて火を消そうとするが、火はどんどん大きくなるばかり。ついには火は大きな火の玉となり、ケンタとニャンタを包み込んだ。「やい!坊主、火遊びをするから、こんな目にあうんだぞ!!」ニャンタが大声で叫ぶ。「火事だ!火事だ!助けて!」その声を聞きつけたワンコ消防隊。ケンタの家の二階から煙が出ているのを見つけて、消防車で駆けつける。家の前には買い物から帰ってきたケンタの母親が茫然として立ちつくしていた。「あの部屋には、うちの子が!うちのケンタが!」火の海になったケンタの部屋へ飛び込んでいくワンコ消防隊。火の玉とワンコ消防隊の攻防が続く。そして……ワンコ消防隊の必死の消火活動で、恐ろしい火の玉も砕け散っていった。

■楽しい花火遊びも危険がいっぱい

公園の一角に集まるノラネコたち。昨夜、焚き

火がもとで火事になり、やっとの事で消し止めたノラネコたちはへトへトに疲れて昼寝をしている。と、そこへ突然「パン!パン!パン!」ねずみ花火やロケット花火が飛んでくる。

ケンタを含む、わんぱく坊主たちが花火遊びをしているのだ。年上のタケシが大筒の花火を出してきた。火をつけようとするケンタ。しかし、なかなかつかない。「変だなあ」タケシが大筒花火を振ってみる。すると、突然、花火が火を吹いた!。驚いたタケシは花火を草むらへ放り投げ、枯れ草が燃えだし、あっという間に公園は火の海に!そして、またもや火の玉が現れて……「火の恐さを教えてやるワイ。火遊びをした天罰じゃ!」今度こそ絶体絶命のケンタたち。そこへワンコ消防隊がサイレンを鳴らして駆けつけた。はたして火の玉をやっつけ、火事を消し止めることができるのか?

制作スタッフ

声の出演	小田としみつ 岡本わたる はせ ようこ にしや えみ おのせやすよ 池上 恵
制 作	高木裕己 藤井正和
脚本・監督	高木裕己
絵コンテ	細谷秋夫
作 画	富谷 美香 宮崎 麻美 古宇田文男 白田 由香
テーマソング	作 詞 高木裕己 作曲・音楽 加藤由美子
本 編 集	阿部伸太郎
効 果	スワラプロダクション
MAスタジオ	スリーエス・スタジオ

●お問い合わせ、お買い上げは……

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp